



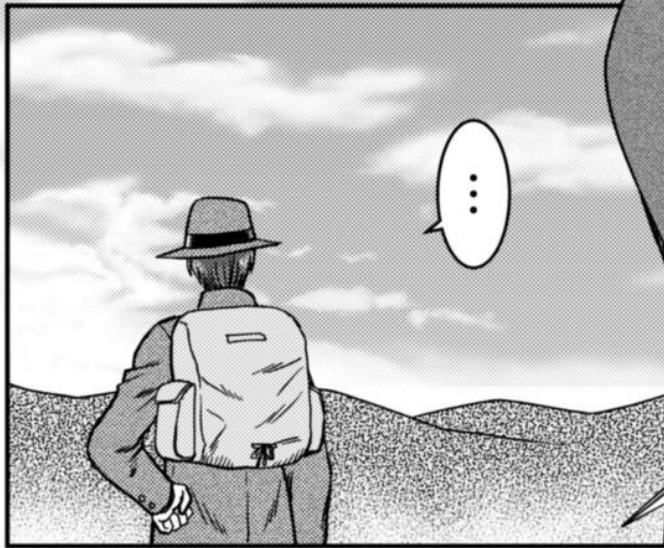
道	〈みちゆく〉
征	ハナブサ

昭和六年
某山 尾根



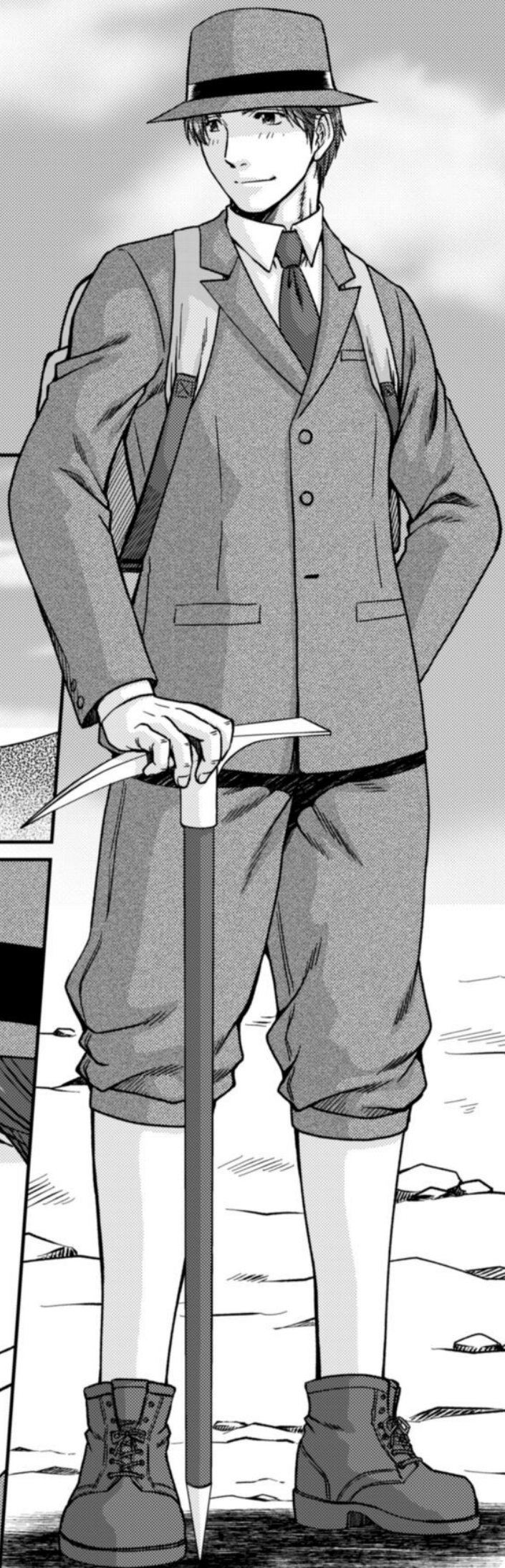
ふう

軽登山とはいえ
山に来るのは
久々だな



...

やっぱり
はるおみ
晴臣も誘えば
よかったかなあ



楠緒くすお！

週末
山行こうぜ！

晴臣とは
幼馴染だ

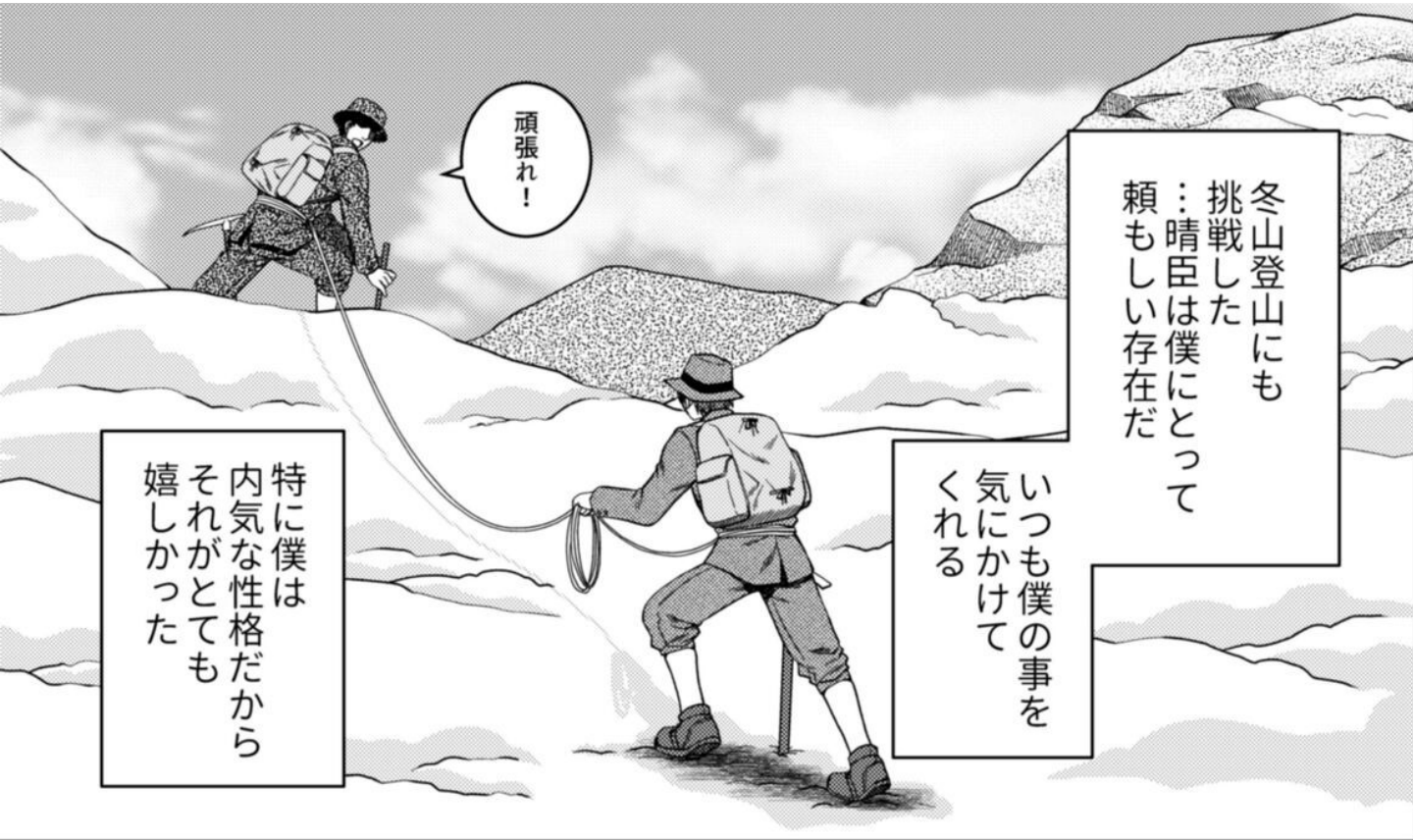
隣の県の
山なんか
どうだ？

いいね！

小さい頃から
いつも一緒に
行動してた

遊ぶ所は
いつも山

近所の
低山から始まり
登る山も徐々に
高くなっていった



頑張れ！

冬山登山にも
挑戦した
：晴臣は僕にとって
頼もしい存在だ

いつも僕の事を
気にかけて
くれる

特に僕は
内気な性格だから
それがとても
嬉しかった



だから僕は
晴臣のことが
大好きだ



でもお互い違う
大学へ進学してからは
一度も山へ行っていない





それ以来僕は
晴臣と連絡を
取らなくなった
：あいつには迷惑を
かけたくないから



：そりや
そうか



新しい環境に
なれば忙しくも
なるし

新しい友達
だってできる
よな：

正直晴臣は
どこに行っても
人気者だから
羨ましいな





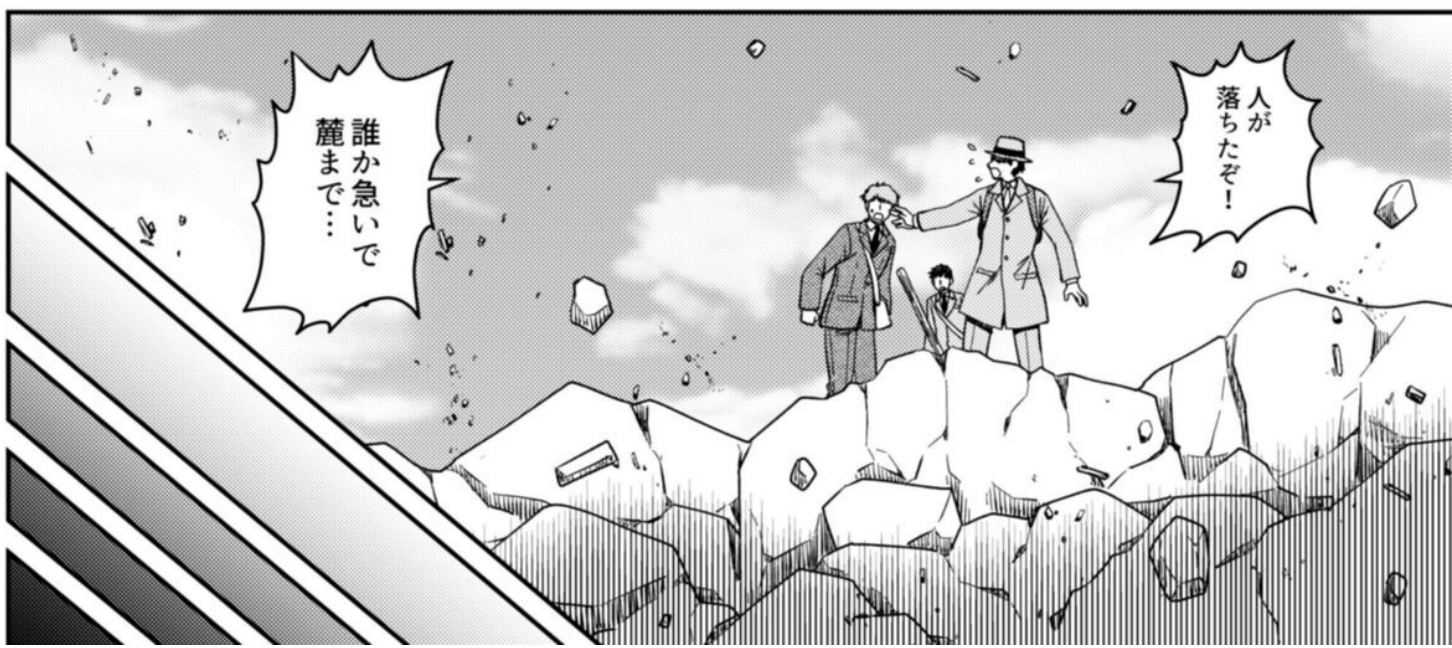
しまった!!



ダメだ…
止まら
ない!!



片手しか
使え…
止まるか?!



数日後 病院

たまたま
近くに人が居て
よかった…

あれで骨折と
打撲だけで済んで
自分でも
びっくりだよ…

楠緒…

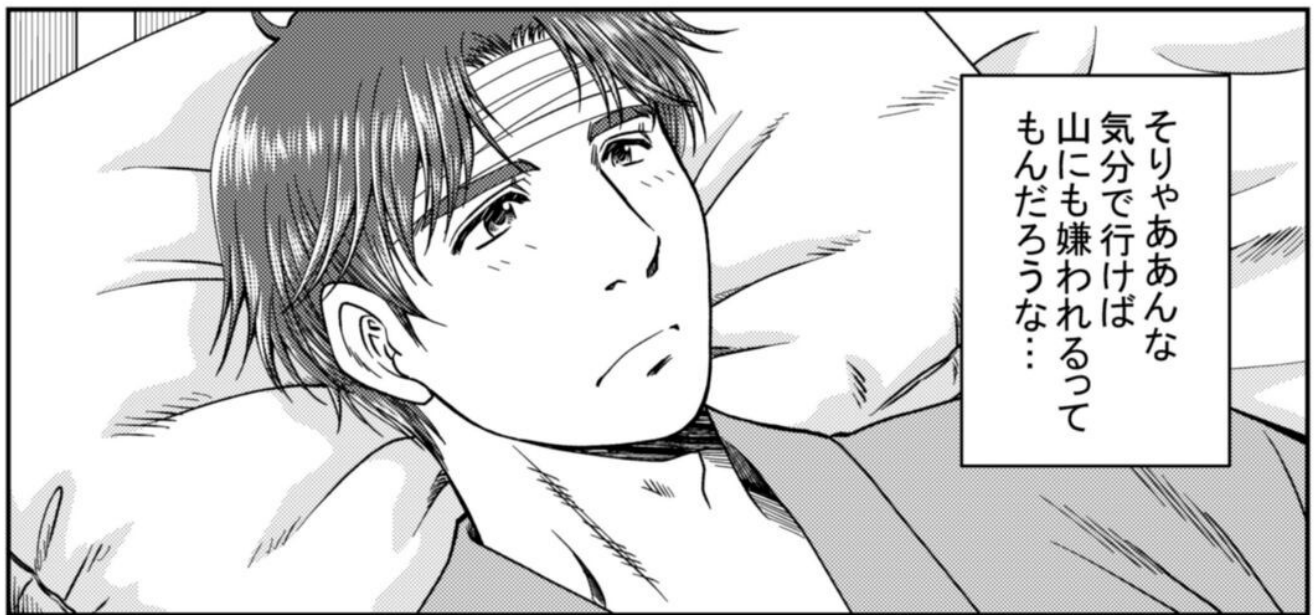
あんたどうせ
ボーツとしながら
山道歩いて
たんでしょ



そんなつもりは
なかったんだけど
なあ…

まあ今は
山に来るなって
ことなんでしょ

とにかく
気を付けて
ちょうだいよ



そりゃああんな
気分で行けば
山にも嫌われるって
もんだろうな…



じゃあお母さん
この事を
晴臣ちゃんに
伝えて来るから

ちよっと
待って
母さん！



二ヶ月後
楠緒の共同住宅

やっと病院から
自分の部屋へ
帰ってこられたし

添え木も
取れたし

療養するにしても
やっぱりこっちの
方が気が楽だ

なっ
なんだ?!



楠緒
おまえ…

晴臣…

山で滑落して
怪我したん
だってな

え…

…それどこで
知ったんだよ

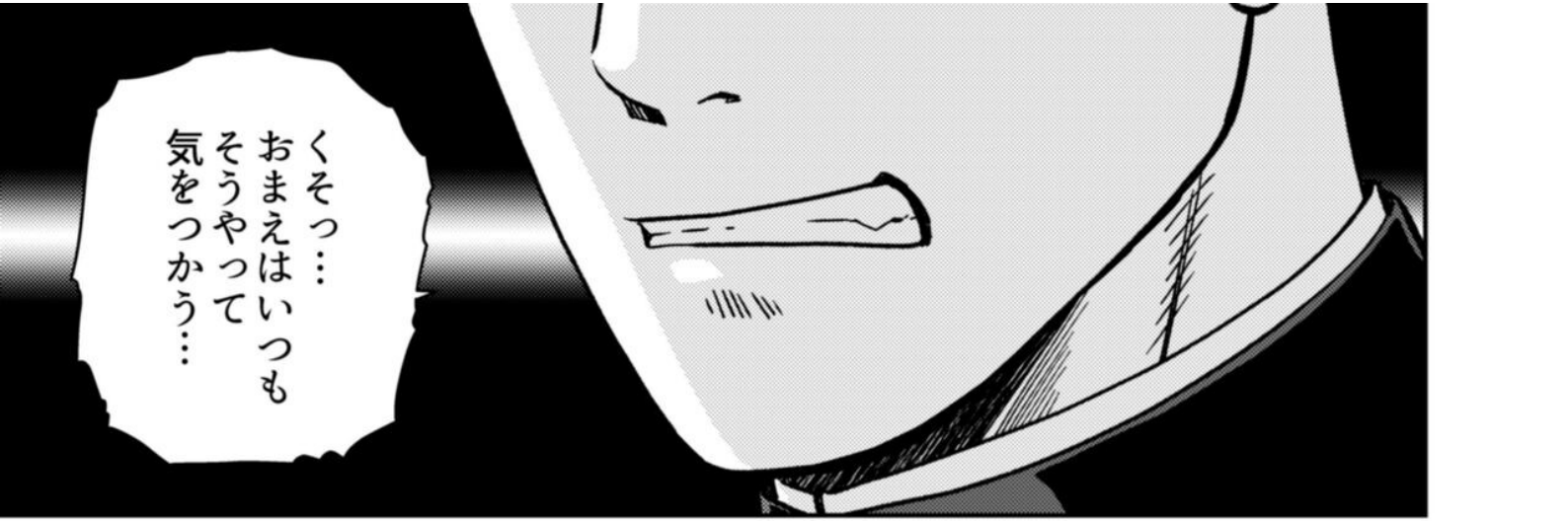
おまえの
通ってる
大学だ

最近おまえに
会ってなかった
から行って
みたんだ

そしたら怪我で
休んでるって
言うじゃないか
なぜ連絡して
くれなかったんだ？

…何ヶ月か前に
そっちの大学を
訪ねたんだけど
晴臣が忙しそう
だったのを見て

キミの新しい
生活を邪魔したく
ないと思っ
てさ…
それで知らせ
なかった

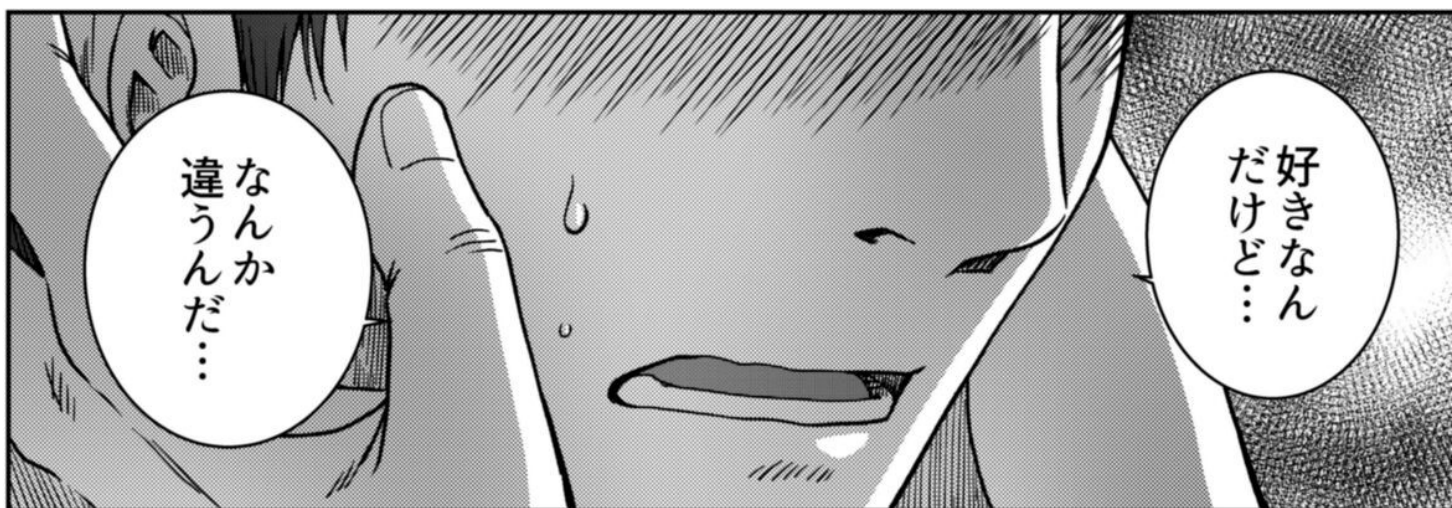


くそっ…
おまえはいつも
そうやって
気をつかう…



俺の顔を
見て話せ
楠緒!!

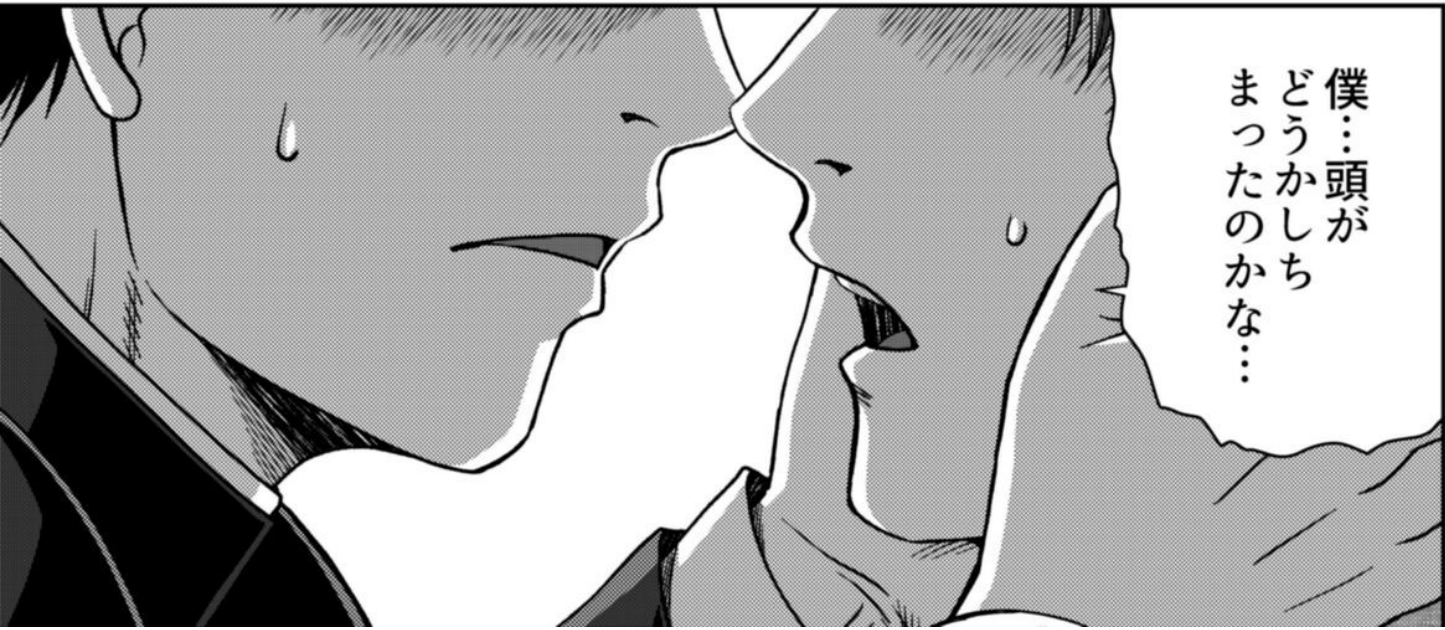
ク
ッ





今まで感じてた
「好き」とは
違うんだよ…

考えれば
考えるほど
よく解ら
ないんだ…



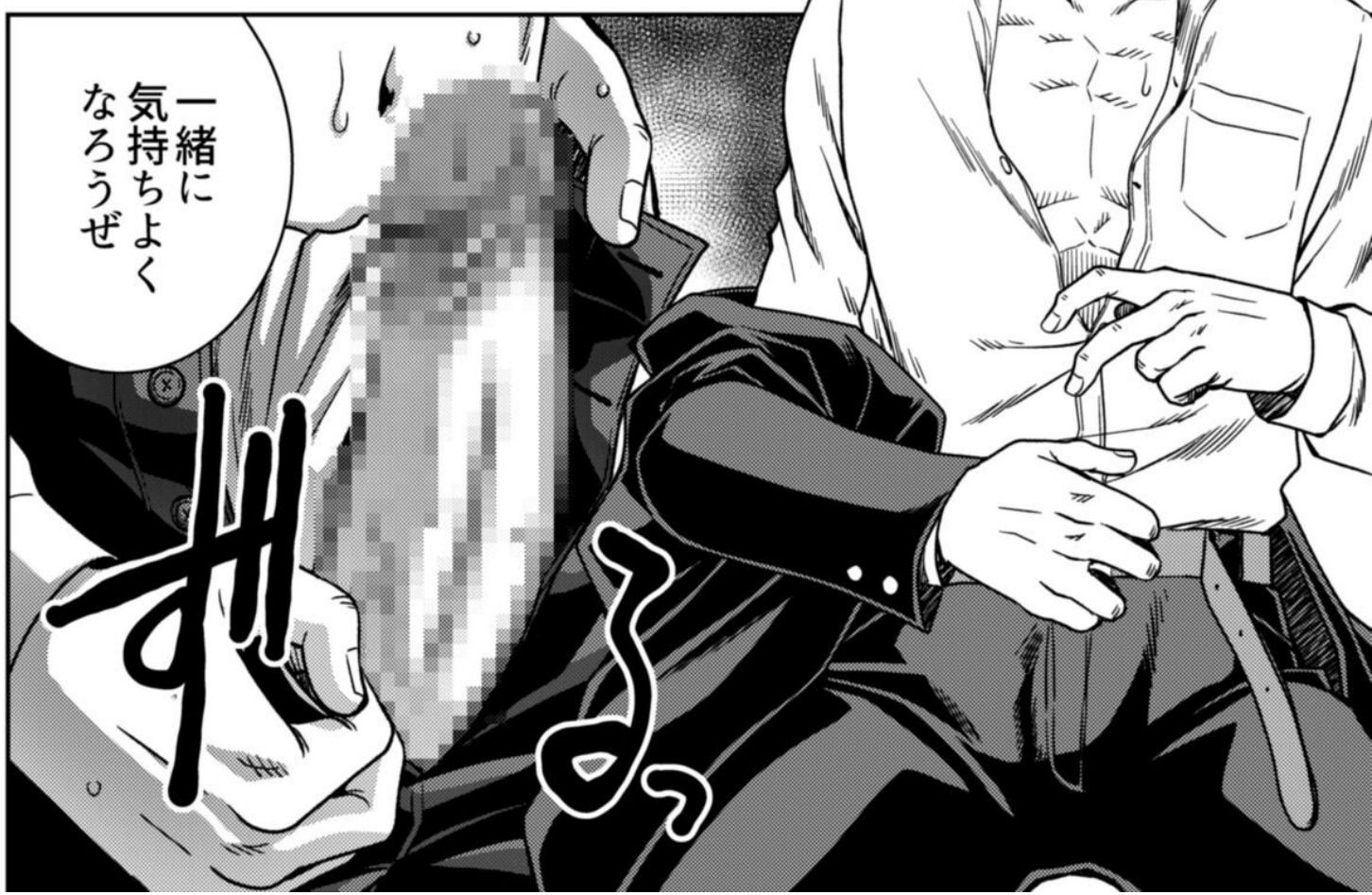
僕…頭が
どうかしち
まったのかな…





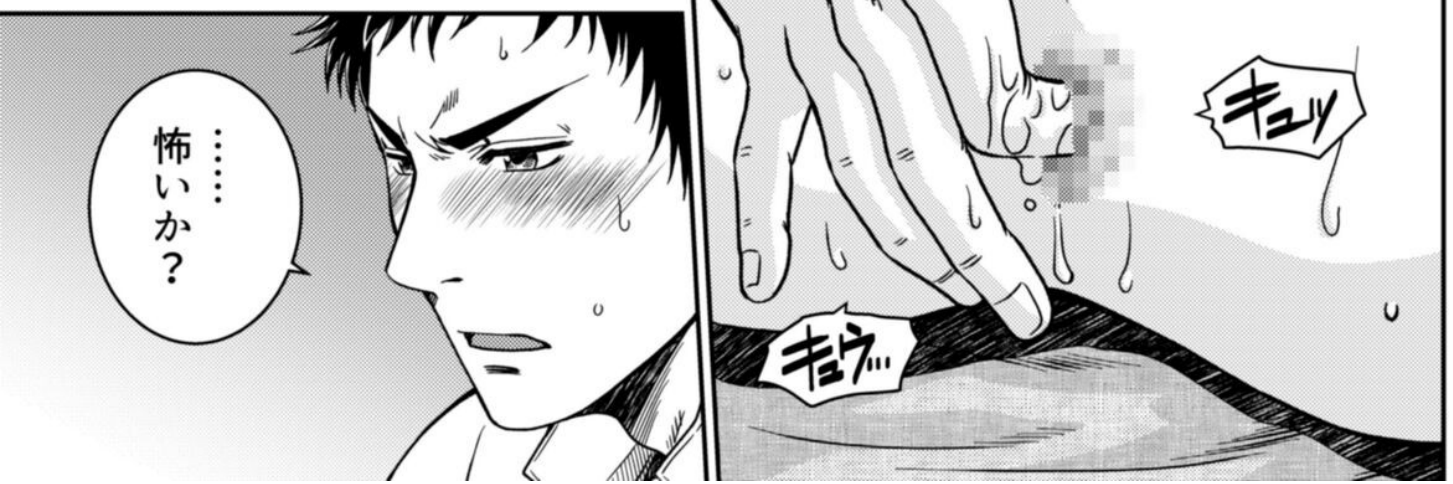
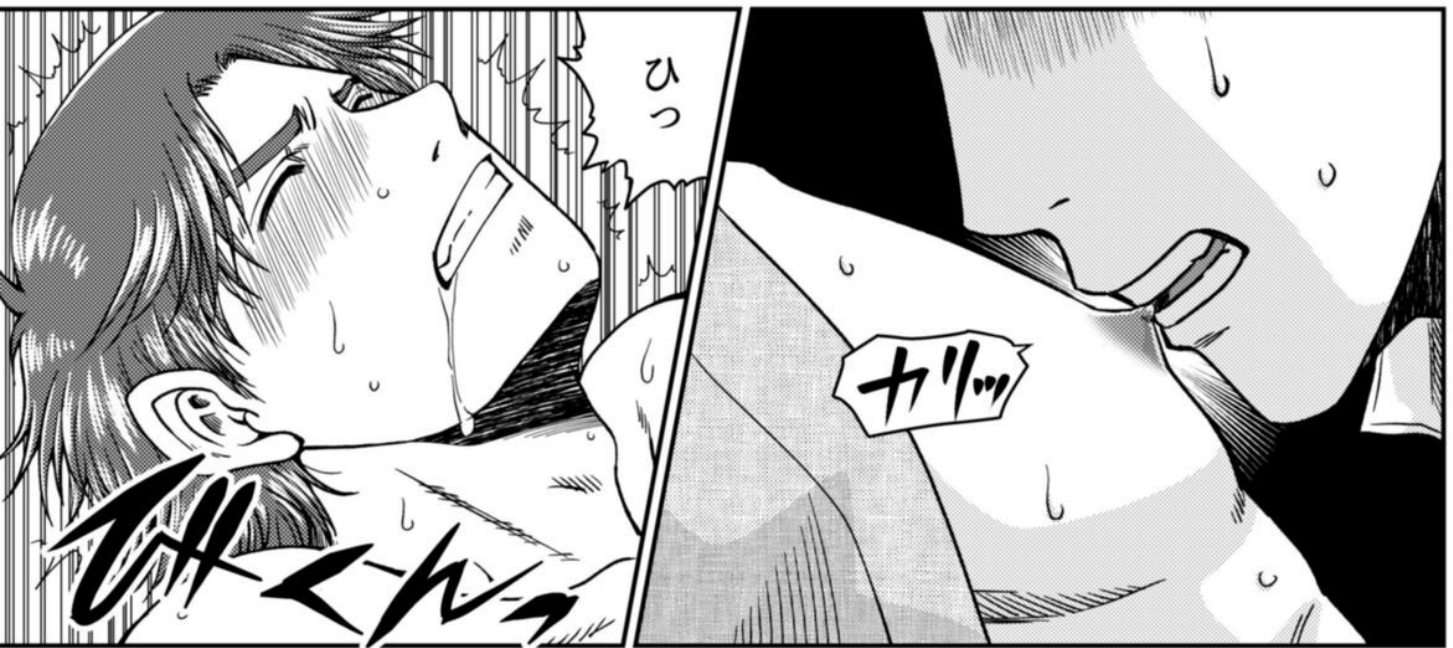
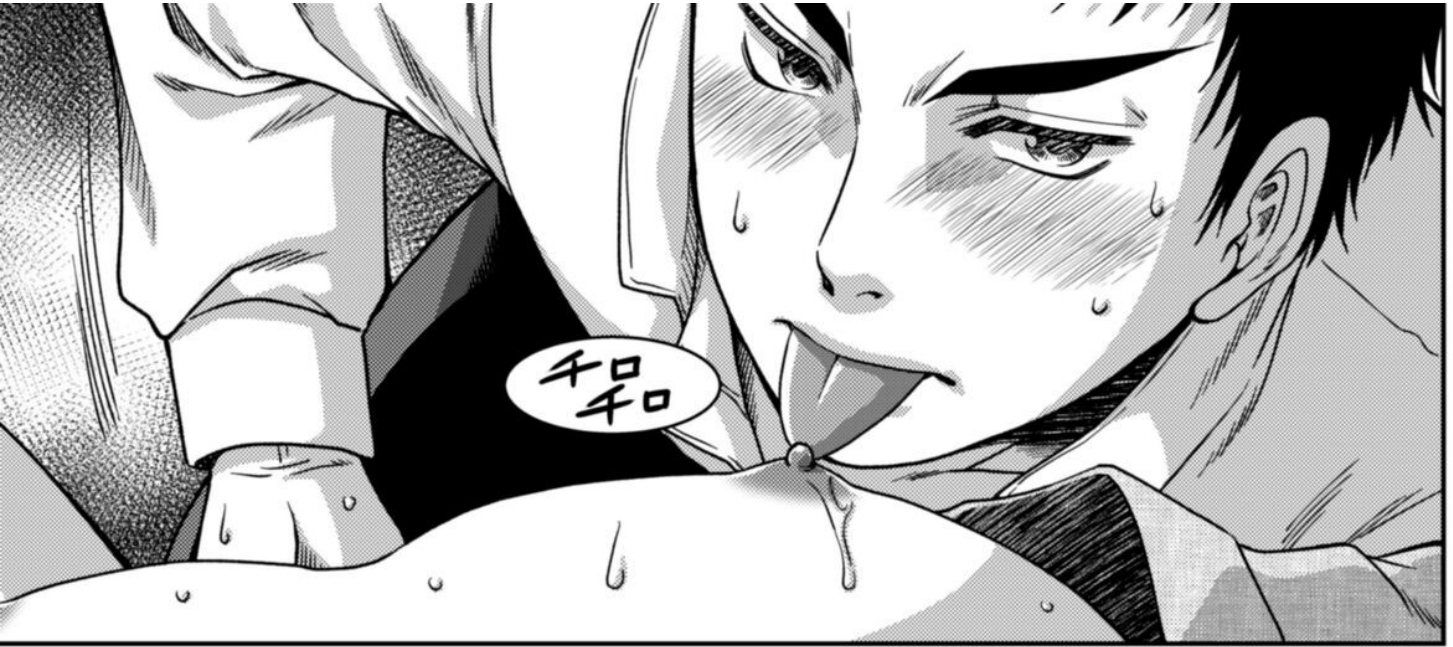












怖いか？



怖いなら
やめるが…

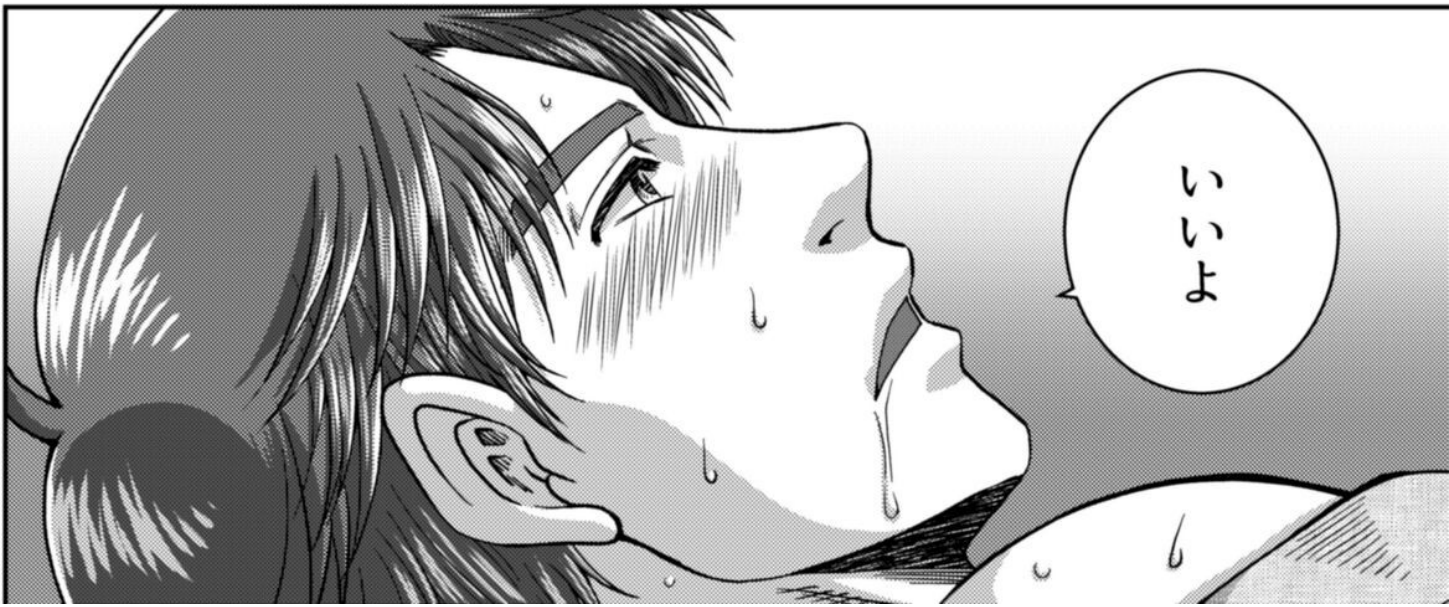


大丈夫…
晴臣ならうまく
やってくれそう
だし

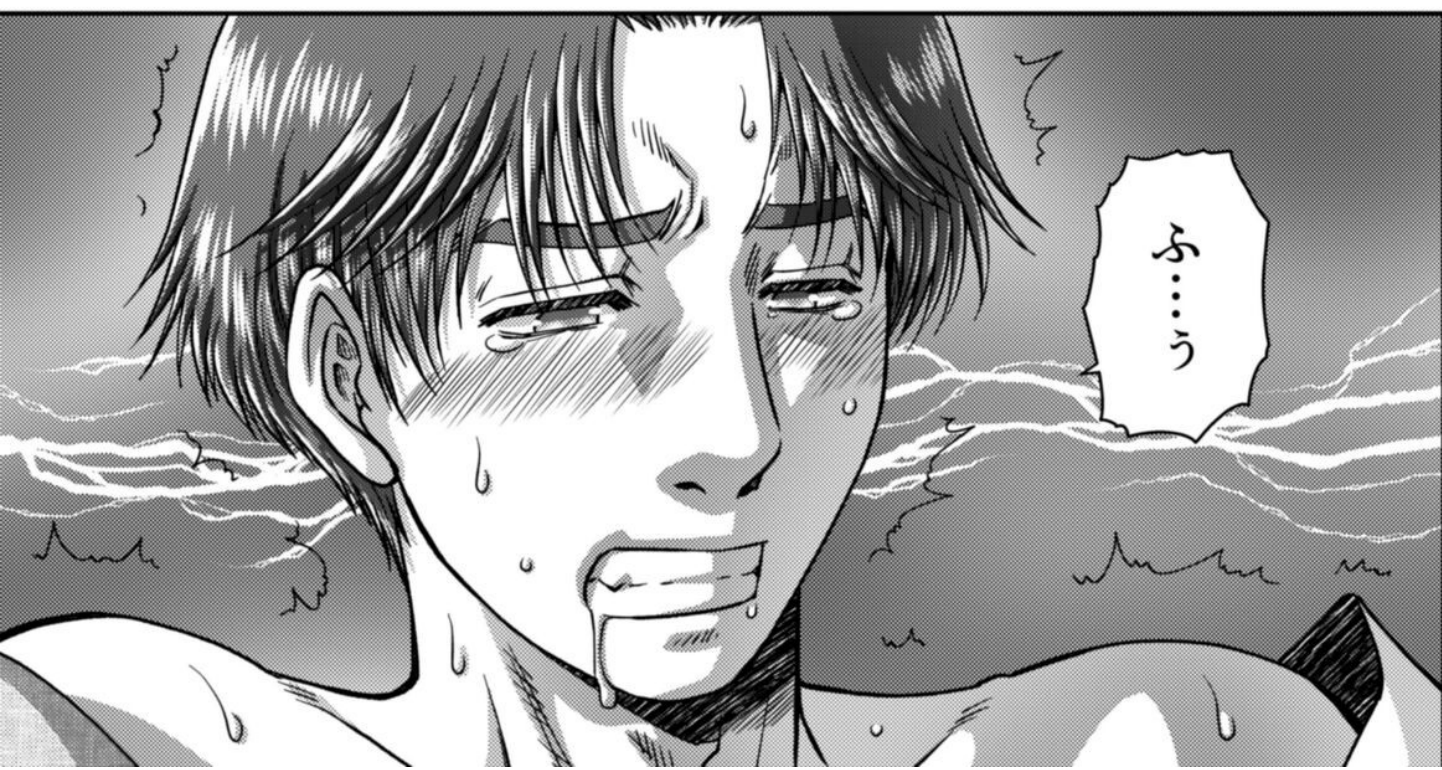
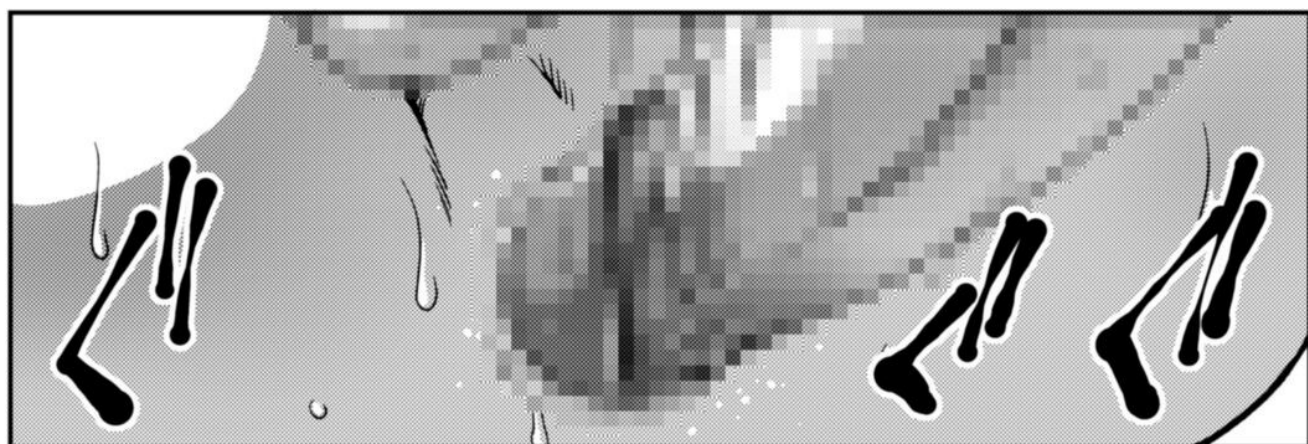


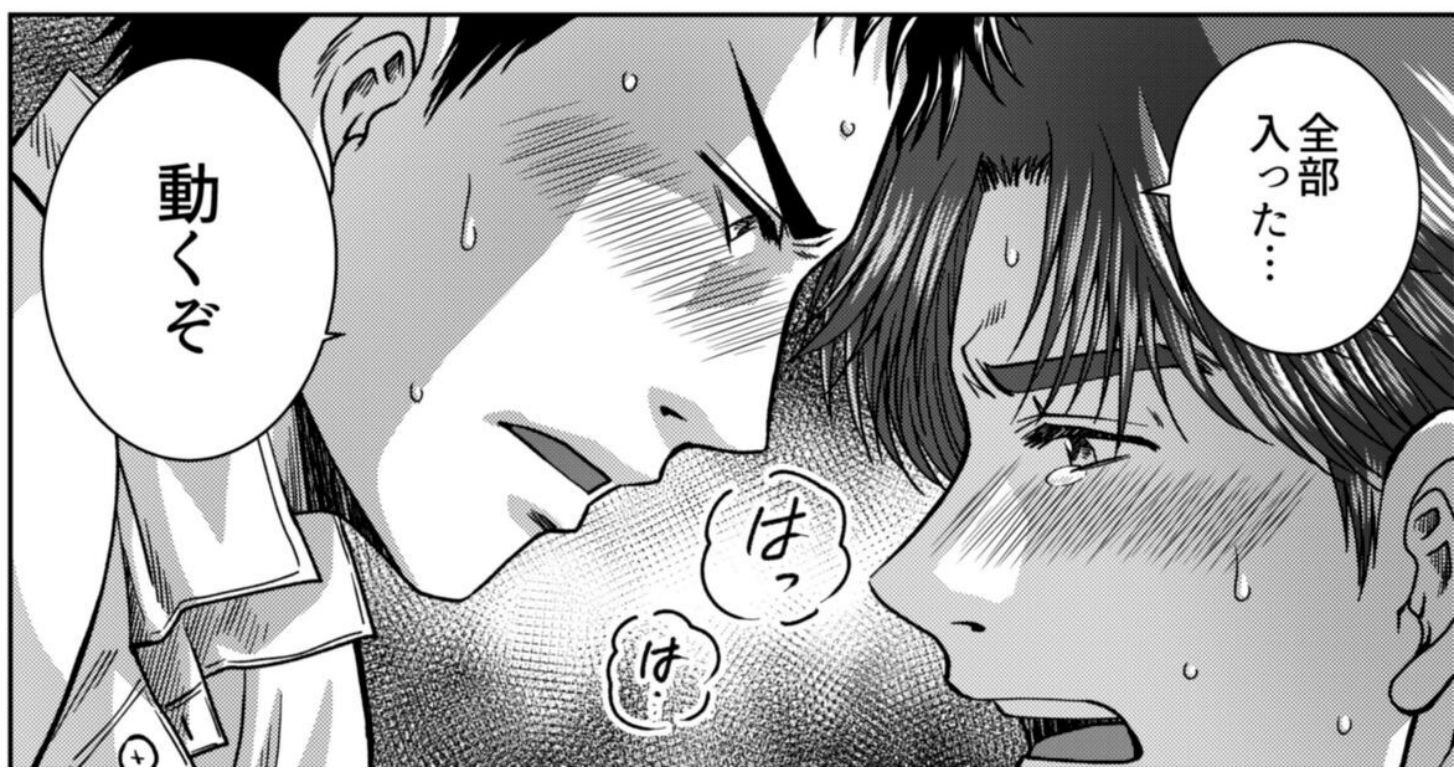
…いいか？

楠緒…

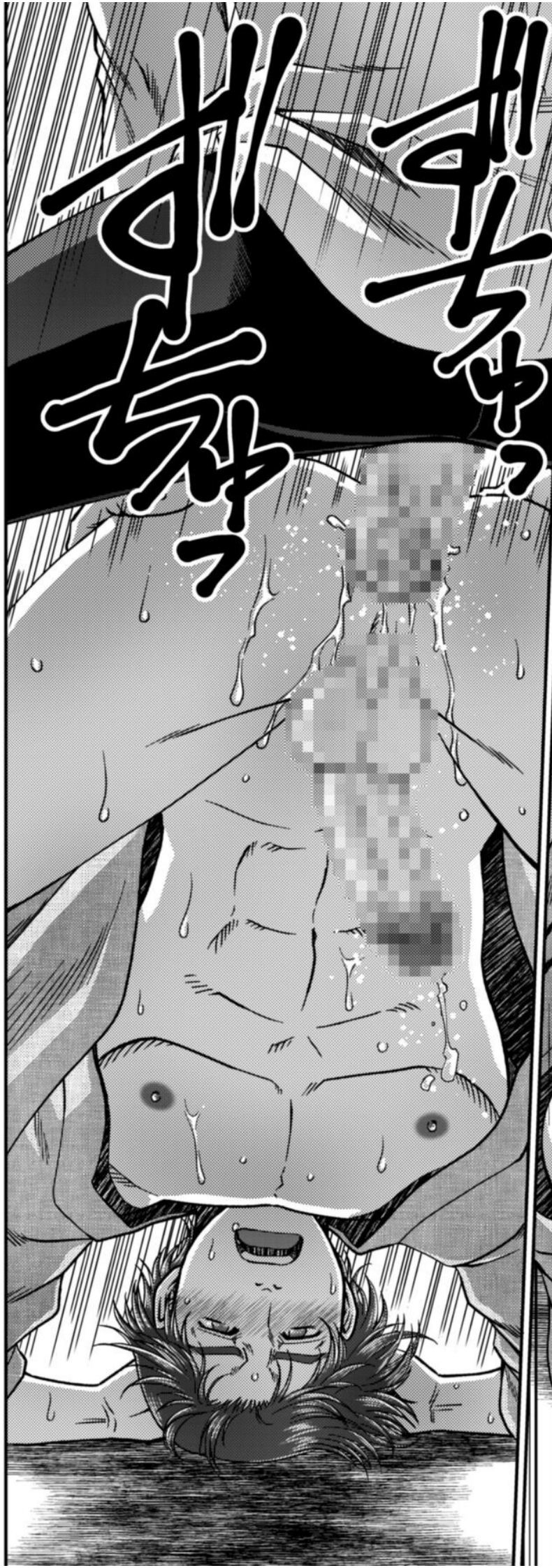


いいよ



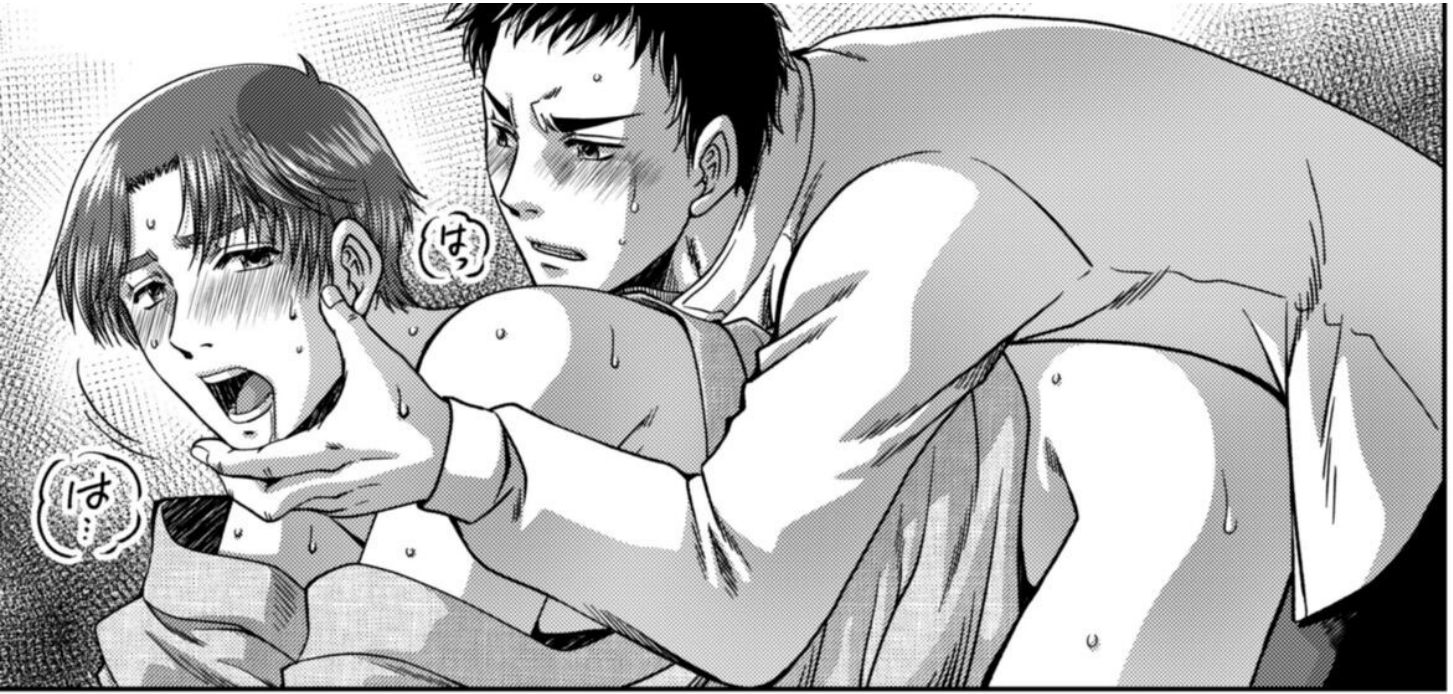




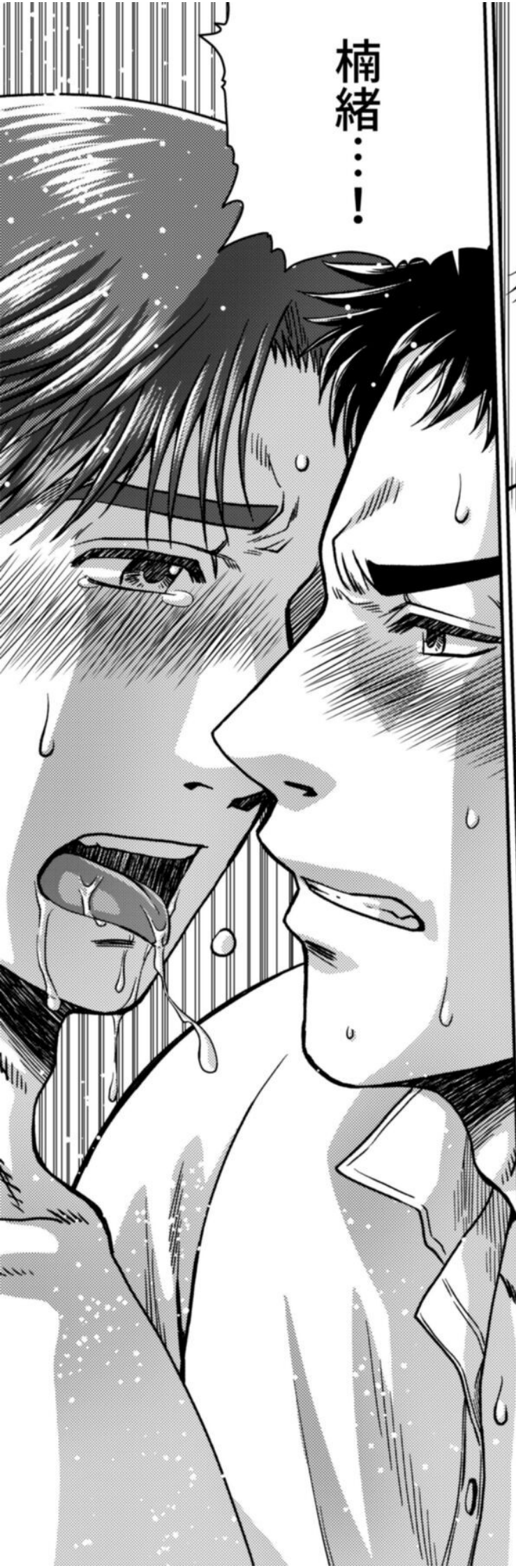












楠緒……！



すちゃっ

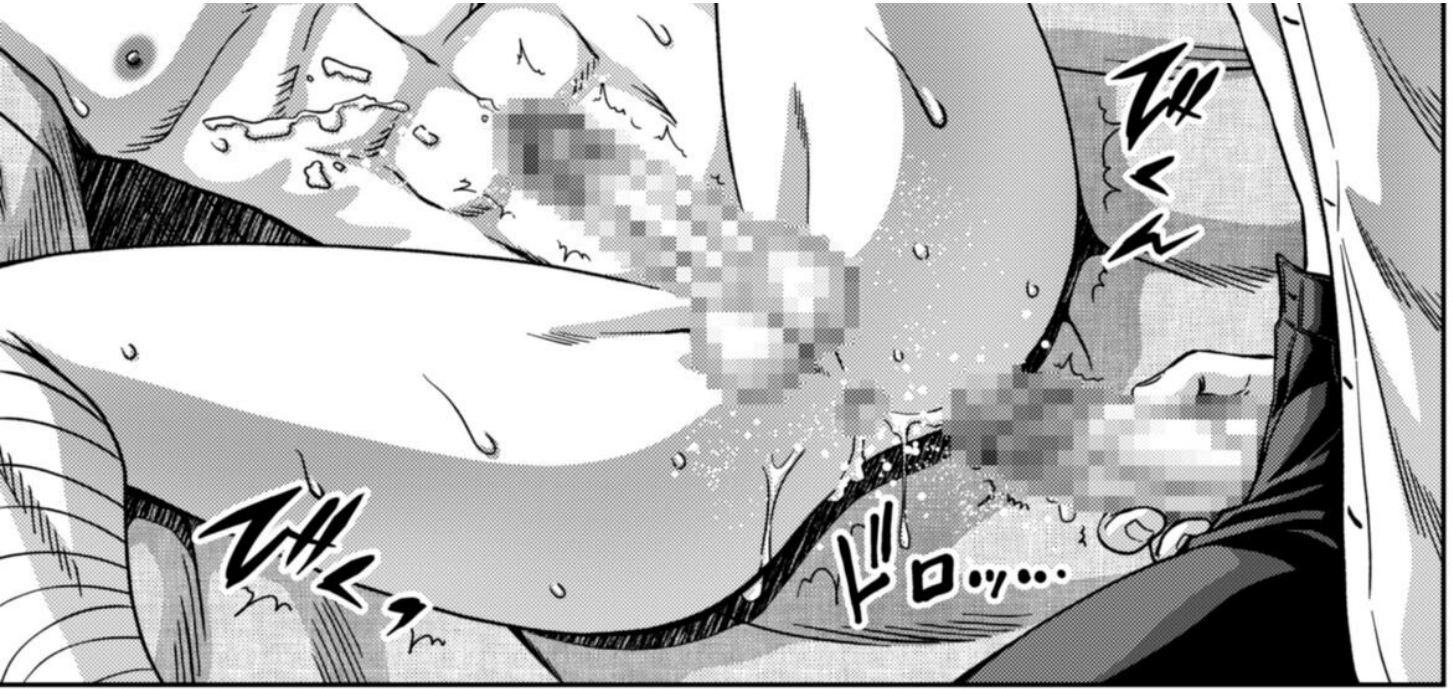
すちゃっ
すちゃっ

ああッ!!

晴臣…
イク…ッ!!



グッ!!





…初めてなのに
すごく気持ち
よかった…

僕…
おかしいの
かな…



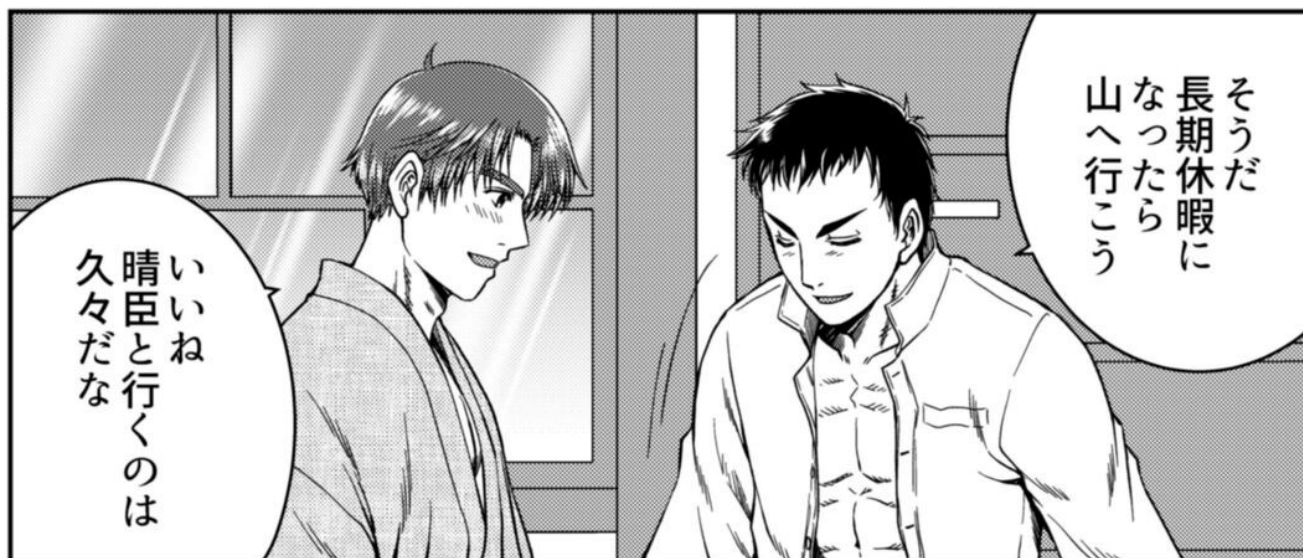
…なら俺も
おかしいな

なんで
そうなる？



おまえの中…
凄く気持ち
良かった
ずっと繋がって
いたくらいな

う…



いいよ

二人
きりで

今度はもっと
色々なことを
しよう



終